

## 都市農地貸借円滑化法事例②

## 地域に根付くイチゴづくりを

大阪市・山口 博之さん

山口ファームの山口博之さん

(55)は、都市農地の貸借の円滑化に関する法律により、昨年4月に大阪市東住吉区の生産緑地13㍏を借り受けて新規就農した。

府が北部地域で令和4年度に実施した「いちごアカデミー」での研修を終えて、農地を探していたところ、前職である施設園芸資材メーカーとしての業務のつながりから、今の生産緑地

の所有者と知り合った。

所有者は高齢のため農作業を続けることが難しく、貸付の意向があることを知った山口さん。「大阪市はイチゴの主産地ではないが、地域住民と関わる農業が出来るのではないか」と都市部の立地に魅力を感じ、借り受けるに向け、大阪府中部農と緑の総合事務所経由で市に相談。大阪市における同法に基づく初め

での貸借事例となった。

現在、高設栽培の設備を導入し、イチゴ「章姫」を栽培。前職で販売していた設備を自作で設置するなど、培ってきた知識を活かしている。多くの新規就農者が設備ごとの特徴や栽培手法との相性を試行錯誤しながら覚える中、既にその知識を有していることは、新規参入に向けた障壁の一つを軽減することに繋がった。

これから収穫を迎えるイチゴは、市場出荷や小売店での販売を予定しているほか、大阪市内

の住宅街という立地から地域住民に声をかけられる機会も多く、軒先販売など直接交流を伴う販売方法についても検討している。

山口さんは、「まずは美味しいイチゴの安定生産が目標。山口ファームのイチゴとして地域に根付けば、体験摘み取りなどの地域に密着した活動なども検討したい」と話す。



この冬に初めての収穫を迎えるイチゴとともに

## なにわ農業賞受賞者紹介89

## 地域農業をけん引する担い手に

富田林市・辻田 陽平さん

確保・費用低減を図っている。

富田林市別井の辻田ファームリーファームの辻田陽平さん(48)は、千両なすとキュウリの施設栽培を中心に、約150㍏の農地で営農している。

子どもの頃から親の農業を継ぐことを志し、府立農芸高校を卒業後、造園会社での勤務を経て23歳で親元就農。代々受け継がれてきた良質なナス苗の自家生産が特長で、苗代が高騰する中でも、接ぎ木苗を自前で育成することで品質

確保・費用低減を図っている。先代から受け継いだハウス14棟は1カ所に集約されており、加温設備による温度制御をすることで、省力化と安定した周年出荷体制を確立している。

生産した野菜は市場出荷が中心であるが、コロナ禍を機に農園の軒先に野菜の自動販売機を設置した。地元住民からは新鮮でおいしい野菜が手軽に買えると好評を博してお



ナスの苗を生産するハウスで

り、1日に2〜3回自動販売機に野菜を補充してなお完売

するほどの人気。令和元年の受賞当時には消費者への直接販売を志向し

ており、これが形になったものだ。

地域活動にも積極的で、富田林4日クラブ会長、JANAナス部会長や青壮年部長などを歴任。近隣地区で営農する同世代の農家と

ともにドロー

ンの免許を取得し、農業の自動散布を請け負うなど、高齢化が進む地域農業の支援にも取り組んでいる。また、地元の若手農業者らで運営する「富田林市きらめき農業塾」の研修受入農家の1人として協力し、毎年塾生が辻田さんの苗づくりの見学に訪れるなど、次世代の担い手育成にも協力を惜しまない。

辻田さんは「担い手の高齢化が進む中で、地域農業と農地をどう維持するかが課題。現役世代として真剣に取り組んでいきたい」と話す。

(沼田)